

平成20年8月14日
三井生命保険株式会社

平成20年度第1四半期報告の概況について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 西村 博）の平成20年度第1四半期報告（平成20年4月1日～平成20年6月30日）の概況につきましては、以下のとおりです。なお、数値の詳細につきましては、本日付ニュースリリース「平成20年度第1四半期報告」をご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

【契約の状況】

個人保険および個人年金保険の**新契約年換算保険料**は、当社の主力である総合保障型商品の販売が増加したものの、銀行における一時払変額個人年金保険の販売が減少した結果、**100億円**となりました。また、**保有契約年換算保険料**は**6,260億円**となりました。

個人保険および個人年金保険の**新契約高**は**2,843億円**、**保有契約高**は**38兆4,567億円**となりました。

【損益の状況】

保険料等収入は、銀行における一時払変額個人年金保険の販売減少等により、**1,904億円**となりました。**経常収益**は**2,827億円**、**経常費用**は**2,770億円**となった結果、**経常利益**は**56億円**となりました。

四半期純利益は**6億円**となりました。

【主要指標の状況】

基礎利益は、**逆ざや額148億円**を織り込んだうえで**112億円**となりました。

有価証券の含み損益の増加等により、**ソルベンシー・マージン比率**は**716.6%**、**実質純資産額**は**5,790億円**と、それぞれ平成19年度末から上昇・増加しています。

1. 契約の状況

(1) 年換算保険料〔個人保険・個人年金保険〕

(単位:億円)

区 分	平成20年度 第1四半期
新契約年換算保険料	100
うち医療保障・生前給付保障等	32

(単位:億円)

区 分	平成20年度 第1四半期末
保有契約年換算保険料	6,260
うち医療保障・生前給付保障等	1,185

平成19年度末
6,321
1,180

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。
 2. 医療保障・生前給付保障等については、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。
 3. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。

(2) 新契約高、解約・失効高(率)〔個人保険・個人年金保険〕

(単位:億円、%)

区 分	平成20年度 第1四半期
新契約高	2,843
解約・失効高	6,216
(解約・失効率)	1.59

- (注) 1. 新契約高は、新契約+転換純増の数値を表示しています。
 2. 解約・失効の数値は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

(3) 保有契約高

(単位:億円)

区 分	平成20年度 第1四半期末
個人保険・個人年金保険	384,567
団体保険	145,298
団体年金保険	12,459

平成19年度末
392,712
145,765
12,505

- (注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払後契約の責任準備金を合計したものです。
 2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

2. 損益の状況

(単位:億円)

区 分	平成20年度 第1四半期
経常収益	2,827
うち保険料等収入	1,904
うち資産運用収益	771
経常費用	2,770
うち保険金等支払金	1,852
うち資産運用費用	364
うち事業費	298
経常利益	56
特別利益	1
特別損失	8
契約者配当準備金繰入額	44
四半期純利益	6

3. 主要指標の状況

(単位:億円)

区 分	平成20年度 第1四半期
基礎利益	112
逆ざや額	▲ 148

(単位:億円、%)

区 分	平成20年度 第1四半期末
ソルベンシー・マージン比率	716.6
実質純資産額	5,790
有価証券の含み損益(一般勘定)	1,142
総資産	78,487

平成19年度末
696.1
5,651
951
78,215

以上

【参考】

証券化商品への投資状況について

金融安定化フォーラム（F S F）の報告書を踏まえた平成20年度第1四半期末のサブプライム関連投資を含めた証券化商品の投資状況（一般勘定）は以下のとおりです。

1. C D O

（単位：億円）

	平成20年度第1四半期末						平成19年度末					
	残高(時価) ^(注1)		含み損益 ^(注2)		実現損益 ^(注3)		残高(時価) ^(注1)		含み損益 ^(注2)		実現損益 ^(注3)	
		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連
債務担保証券(CDO)	434	1	▲71	0	▲34	0	455	1	▲64	0	▲236	▲29
ABS - CDO	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	▲29	▲29
ローン担保証券(CLO)	87	—	▲47	—	—	—	83	—	▲43	—	—	—
その他のCDO	346	—	▲24	—	▲35	—	370	—	▲22	—	▲207	—

2. C D O以外

（単位：億円）

	平成20年度第1四半期末						平成19年度末					
	残高(時価) ^(注1)		含み損益 ^(注2)		実現損益 ^(注3)		残高(時価) ^(注1)		含み損益 ^(注2)		実現損益 ^(注3)	
		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連
商業用不動産担保証券(CMBS)	125	—	▲0	—	—	—	127	—	0	—	—	—
その他	6,361	—	▲138	—	▲0	—	6,236	—	▲10	—	8	—
住宅ローン担保証券(RMBS)(※1)(※2)	3,675	—	▲44	—	—	—	3,518	—	29	—	9	—
上記以外の証券化商品(※3)	2,685	—	▲93	—	▲0	—	2,717	—	▲39	—	▲0	—
小計	6,487	—	▲139	—	▲0	—	6,363	—	▲9	—	8	—

- ※1 このほかに、特別勘定においてRMBS（住宅金融支援機構債券〔旧住宅金融公庫債券〕）を保有しており、その残高および実現損益は以下のとおりです。なお、特別勘定にて保有する有価証券は全て売買目的有価証券であるため、含み損益はありません。
（平成20年度第1四半期末…残高:31億円、実現損益:0億円、平成19年度末…残高:37億円、実現損益:▲0億円）
- ※2 上記RMBSのうち、米国政府系機関および米国政府支援機関（ジニーメイ、ファニーメイ、フレディマック）のMB Sの残高、含み損益および実現損益は以下のとおりです。（平成20年度第1四半期末…残高:845億円、含み損益:▲12億円、実現損益:なし、平成19年度末…残高:845億円、含み損益:6億円、実現損益:9億円）
（なお、上記の証券化商品とは別に、当該機関に係る社債を保有しており、平成20年度第1四半期末は残高52億円〔含み損益▲0億円〕、平成19年度末は残高106億円〔含み損益4億円〕となっています。）
- ※3 主な内訳は、リバース・デュアル・カレンシー債、CMS債、クレジットリンク債となっています。

3. 合計... 1 + 2

（単位：億円）

	平成20年度第1四半期末						平成19年度末					
	残高(時価) ^(注1)		含み損益 ^(注2)		実現損益 ^(注3)		残高(時価) ^(注1)		含み損益 ^(注2)		実現損益 ^(注3)	
		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連		うちサブプライム関連
合計 = 1 + 2	6,922	1	▲211	0	▲35	0	6,819	1	▲74	0	▲227	▲29

- (注) 1. 時価は、債券の市場価格（デリバティブを内包するものについてはデリバティブ部分の評価損益との合計）を記載しています。当該時価は全てブローカー等から提供されたものを採用しており、当社内部で理論価格を算出したものではありません。
2. 含み損益は、外貨建その他有価証券の為替換算差額を損益計算書に計上した後のベースで記載しています。
3. 実現損益は、売却損益、評価損および複合金融商品の区分処理に伴う損益を対象としています。
4. 複合金融商品の区分処理とは、企業会計基準適用指針第12号に則り、複合金融商品を債券部分と組み込まれたデリバティブ部分に区分して処理することです。

(用語説明) 各種証券化商品について

- CDO : Collateralized Debt Obligation 債務担保証券。複数の参照債務バスケットの信用リスクに投資する。優先劣後構造を持ちリスクの異なる階層に切り分けられそれぞれにクーポンが設定される。
- ABS-CDO : ABS (Asset Backed Securities 資産担保証券) を裏付資産とする債務担保証券。
- CLO : Collateralized Loan Obligation ローン担保証券。企業向けローンを組合せて証券化した証券。優先劣後構造を持ちリスクの異なる階層に切り分けられそれぞれにクーポンが設定される。ABSの一種で、広義のCDOに含まれる。
- CMBS : Commercial Mortgage-Backed Securities 商業用の不動産に対して実施した融資を一纏めにし、それを担保にして発行される債券。
- RMBS : Residential Mortgage-Backed Securities 住宅ローンを担保として発行される証券。

以上